

第13回労使セミナー開催

「道路建設業をとりまく状況」「セクハラ」をテーマに



12月11日（木）、第13回労使セミナーが、新宿ワシントンホテルで開催されました。当日は、年末の何かと忙しい時期にもかかわらず、道建労働非加盟企業3社を含め、労使約50名の参加者がありました。

セミナーの第1部では、弁護

士の白井久明氏による「セクシュアル・ハラスメントに関する労使の課題」（東京都中央労政事務所との共催）と題する講演がありました。

白井氏の講演では、①男女雇用機会均等法が本年7月に改正され、「事業主は、職場において行われる性的な言動に対するその雇用する女性労働者の対応により当該女性労働者がその労働条件につき不利益を受け、又は当該性的な言動により当該女性労働者の就業環境が害されることのないよう雇用管理上必要な配慮をしなければならない」という規定が新設されたことにより、同規定は禁止規定ではないものの、事業主のセクハラに対する義務が明記されたことで、事業主の責任を肯定し易くなったこと。②セクハラが新聞報道で取り上げられることが多いことを踏まえ（朝日新聞では過去10カ月で2日に1回の割合）、セクハラの実態が明らかになり、さらに裁判で争われ事業主が敗訴し賠償金を支払う事例もでていくこと。③セクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)となるかどうかは、「相手方の望まない性的な言動」かどうかが判断の分かれ目となること。④予防のための対策と起きたときの対策として、事業主だけでなく、労働組合も苦情処理としての機能を持つべきであることから、職場環境の維持という視点から、苦情申し立てに対する適切な処理を怠れば、責任を追求される場合もあり得ること。などが主な内容でした。

第2部は、「道路建設業を取り巻く状況」というテーマで、日本道路建設業協会（道建協）専務理事の宮地昭夫氏を講師に迎え行われました。宮地専務理事は、今年1年間の舗装工事業をめぐる最近の動向を、1.コスト削減の動き 2.財政再建に伴う公共工事費削減 3.行政改革会議・省庁再編 4.景気の動向と対策 5.新たな道路五ヶ年計画 6.ビジョンフォアワード 7.行政改革委員会・規制緩和リ委員会 8.中央建設業審議会基本問題委員会という8つの視点から捉え、質問の応対を含め、90分にわたり講演されました。

講演では、まず、①コスト削減の動きに関して、生産性の向上と規制緩和の面から、建設省の直轄工事だけの実施ではあるが、道交法80条の適用により、道路管理者が警察署長との警察協議を行うことで、道路使用許可は不要となり、さらに通常約80日に渡る協議期間中は、施工業者の専任技術者は拘束されない

こと。V・E等新たな入札契約制度の面から、既に、四国の地方建設局ではV・Eによる発注工事があること、またV・Eの入札契約制度の定着により上請排除への期待が持たれること。三ヶ年10%の削減の面から、削減は役所が設計、契約の段階で6%、民間が資材供給段階で4%という組み立てであること。直接工事費、間接経費の削減は、歩切りに結びつき易いものであることや地方公共団体の動きが見えないものであることから、コスト削減により予算が浮くかどうかは未知数であり、施工業者の生産性の向上に結びつくかは微妙であること。②財政再建に伴う公共工事費削減について、財政構造改革法は、公共工事費圧縮の流れが明確になる中で、景気の足枷となることが懸念されること。③行政改革会議・省庁再編について、省庁再編の流れの中で、ムダな工事の削減、排除が議論され、東京都内の年末の路上工事削減等となったが、6月から9月の決定までの間、業者からの反対意見が余り出なかったこと。路上工事はムダかとの議論に対して、産業界への影響を見ながら、都内の4カ月路上工事削減の功罪をまとめ、世論形成に対する反論の必要があること。河川局の分離は災害復旧の視点から、中止されるに至ったこと。地方公共団体の再編が、ここ2～3年で始まることが予想されること。④新たな道路五ヶ年計画について、道路整備財源の面から、揮発油税等道路の特定財源が一般財源化もしくは、28兆円の赤字処理に利用される議論があること。また、P-1には、舗装の文字はなく、空気化しており、市場の中で舗装の必要性をPRする必要があること。⑤景気の動向と対策について、税制改革と補正予算の面から、まず、税制の改正により、完成工事高基準を進行基準とすることで税金の前払い方式に一本化する考えもあること、また、補正の動向については、非常に厳しい見方が強いが、道建協では9月末からゼロ国債による展開の申し入れを行っていること。⑥ビジョンフォアワードについて、ホームページ活用による技術的ノウハウの開示、舗装施工管理技術者となるための研修を道建協非会員会社を含め実施し合格者の飛躍的增加に貢献していることなどの自助努力を示すこと、更にいきすぎた受注配分となっている官公需法の是正を求め官庁への要請を行っていくことが重要。などが主な内容でした。



熱心に聴き入る参加者

北海道地協定期総会開催

北海道地協 1997年度役員

役職名	氏名	単組名
議長	佐々木寿彦	大林道路職員組合
副議長	工藤達男	日本舗道労働組合
副議長	高橋博久	日本舗装工業社員労働組合
事務局長	中田亨秀	日本舗道労働組合
幹事	連井	三井道路労働組合
幹事	長野	前田道路労働組合
幹事	濱	東亜道路労働組合
幹事	本間宏幸	大林道路職員組合
幹事	佐々木高司	大成ロテック社員組合
幹事	湯浅慎司	東京舗装工業社員労働組合
幹事	小関淳一	三井道路労働組合
幹事	翁信次	東亜道路労働組合
会計監事	高橋司	大成ロテック社員組合
会計監事	国谷孝子	前田道路労働組合
会計監事	北原裕司	



97年9月17日（金）、北海道地方協議会の第7回定期総会が札幌市の北専ラザにおいて開催されました。

総会開催に際して、道建労働本部より新議長となられた日高議長と、昨年に続き宮崎事務局長を来賓として迎え、18時より定刻通り始まりました。

進行にあたり、総会議長選出の後、佐々木地協議長（大林道路職員組合）と日高本部議長、宮崎事務局長の挨拶の後、議事に移りました。96年度の反省（活動が例年より少なかった）を報告し、会計報告の後、旧役員の解散となりました。

引き続き、総会議長より97年度新役員（案）の発表があり、全員一致で可決され、新年度活動への新たな一歩を踏み出しました。総会終了後会場を移して懇親会を催し、各単組相互の親睦を深めて無事終了しました。

（事務局長 中田亨秀）

会社の経営にもっと関心を！

97年度建設産業労働懇研修会



東海興業労働
士土井委員長

97年11月14日（金）、東京都荒川区のホテルラ
ンゲラツドで、建設産業労働懇研修会が開催されまし
た。前半の2時間は、建設連合加盟単組の東海興
業労働組合・上土井委員長を座長に、議題「会
社更生生活への対応」について講演と質疑応答を、
後半の1時間30分は舟山聡弁護士による「改正雇
用機会均等法」（セクシュアル・ハラスメントを
中心に）について講演を行いました。

両議題ともタイムリーな内容であり、熱心な質
疑応答がなされました。



建設産業労働懇は、ごんじのように日建協（日
本建設産業職員労働組合協議会）・建設連合・
道建労協を中心に、全電工労連・全国通建（全
国通信建設労働組合）・CEU（全日本エソジ
ニアリシテ産業労働組合協議会）・長谷工グル
ープ労働組合の、計134加盟単組18万5,500名の
組合員で構成する建設産業を代表する組織で
す。幹事を道建労協が担当しております。
建設産業労働懇修会は、加盟組織各単組の三役
を対象として毎年開催されております。
今回は、テーマへの関心の高さを反映して会

場収容定員100名をはるかに上回る申込がありまし
たが、やむなく定員で締め切らせて頂きました。
司会を道建労協の斉藤中央執行委員が務め、スム
ーズな運営がなされまし
た。

上土井委員長は、4年前の再建計画策定をめぐ
る危険な兆候に始まり、会社更生法の適用を
申請する7月4日当日の模様、さらに申請後の
支部オルグや更生手続き開始決定といった一連
の流れを、組合の立場から時系列的に話され、
苦闘の様子を浮かび上げられました。

危険な兆候については、金融機関主導の経営
が、「ヒト・モノ・カネのバランスある経営が
必要なのに、カネ・カネ・カネのイメージにな
った」とし、「東海ツンといわれる企業文化が
崩壊していき、たいへんつらい思いだった」と
ふり返りました。策定
された再建計画も下方
修正を繰り返して、「計画
通り進んだのは人減ら
しだけで、金融機関の
支援にしても、なかなか
進まなかったのが実
情」とのことです。

こうした経験をもと
に、「再建・改善計画で
実態を無視したような
右肩上がりの計画と、
経費削減が第一にでて
くるような計画には気
をつけた方がいい」と
強調されました。同社
の再建計画も右肩上が
りで経費削減型でした
が、「本業収益にしても

有利子負債の圧縮も予定通り進まず、財務の健全
化という意味では、むしろ悪化した」と指摘。
最近の各社の改善計画にふれながら、「できれば
こうなればいいという期待だけで、実態をよ
くみていないのでは。我が社と同じような計画
であり、危険だと思う」と続けました。
以後、信用不安が会社にも与える影響や、申請
当日の経過などについて生々しく説明されまし
た。



舟山弁護士

更生手続き開始決定を
受けて、組織規模の縮小
が現在の大きな課題。
「事業計画にそった組織
体制にしないといけな
い。そのため500人の希
望退職を募集しました。
組合としては非常につらい選択だが、退職勧奨
と再就職の斡旋に全力をあげたい」と結びまし
た。

10～12月活動経過

97.10.20	三井道路企業訪問 フジタ道路企業訪問 中央執行委員会
10.21	東亜道路企業訪問 大林道路企業訪問
10.30	大成ロテック企業訪問 前田道路企業訪問
11. 4	日本建設企業訪問 日有建設企業訪問
11. 10	建設産業労働三者懇談会 東京舗装工業企業訪問
11.11	三役会
11.13	中央執行委員会 建設産業労働セミナー
11.14	建設建設企業訪問
11.18	沖縄JVオルグ
11.25	関東・中部・関西 各地協会合同幹事会
11.28	労使セミナー 建設産業労働三者懇談会
12. 4	建設産業労働三者懇談会
12. 6	建設産業労働三者懇談会
12.11	建設産業労働三者懇談会
12.15	建設産業労働三者懇談会
12.22	建設産業労働三者懇談会

後半の「改正雇用機会均
等法」については、セクシ
ュアル・ハラスメントにつ
いての事例の紹介を通して
ケースごとの判断などが示
されました。この問題につ
いては、海外へ進出した日
本企業が訴えられたという
ケースもあり、国内でも訴
訟が数件発生しています。
労働省も労基法のテーマに
掲げており、今後の対策が
なされるに当たってのタイ
ムリーな議題となりました。
また、建設3紙もこの研
修会の報道を行い、産労懇
の活動が建設業界に紹介さ
れる有意義な研修会となり
ました。

各加盟企業トップを訪問 事業所全体運動等について意見交換

日の事業所全体運動展開のため、道建労協加盟企業10社を訪問し、要請活動を行いました。
企業訪問は、道建労協の対外活動の主要なものであるとともに、労働時間短縮に向けて
の取り組みとしても重要な活動です。道建労協から企業トップに、事業所全体運動に対す
る理解を求めるとともに、各単組からの要望事項を含め、道建労協の活動のPRを行いま
した。
さらに、行財政改革による公共事業費削減や、道建協が出した「道路建設産業の将来ビ
ジョン」についても、意見交換を行いました。

訪問先	対応者	訪問者
10月20日（月）	三井道路 フジタ道路	日高、宮崎 日高、宮崎
21日（火）	東亜道路工業 小野総務部長	日高、宮崎
30日（木）	大林道路 小西社長、吉田人事部長 水谷人事部長次	日高、工川
11月 4日（火）	大成ロテック 大岩専務	日高、工川
11月 4日（火）	前田道路 日本舗道	日高、宮崎 日高、宮崎
10日（月）	大有建設 志賀人事労政グループリーダー、 安月社長、立石総務部次長	日高、宮崎
11日（火）	東京舗装工業	日高、宮崎
18日（火）	不動建設	日高、宮崎

沖縄でJVオルグを実施 道建協訪問も併せて行う

11月25日（火）、沖縄県の日本舗道・前田道路の那
覇空港エプロン改良工事JVにオルグを行いました。
当日は、低気圧の通過に伴い時折強風が吹く雨模様で
したが、本部から日高議長と宮崎事務局長が出席し、
日本舗道・前田道路のJVに従事する組合員の他、三
井道路からも組合員の参加を得て行われました。
道建協の活動をより大きく発展させるために、道
建協の組織や活動についてPRするとともに、航空
機の変態などの説明を受け、空港工事特有の諸問題の
発掘に努めました。

また、当日はオルグを行う前に、本部として日本道
路建設業協会（道建協）の沖縄支部を訪問し、西平事
務局長と懇談しました。道建協の活動のPRを行う
とともに、西平氏から沖縄の道
路産業の実情につ
いて説明を受け、意見交換
を行いました。



紙の関機協労建道の
募集の儿ト下新々

95

前号にて、この機関紙の新しいタイトルを公募しましたところ、各単組の皆様から、全部でちょうど100件という、予想を遙かに超える多数のご応募を頂きました。

この機関紙が読者の皆様から高い関心を寄せて頂いていることに、編集部一同大変喜んでおります。

現在道建労協本部役員による予備審査を行っているところ
です。最終審査は2月10日(火)開催の中央執行委員会で行う
予定です。次回発行号から、新しいタイトルがご覧見え
ることになります。
どうぞ楽しみに。



○ 今年の春闘はどう？
 △ 会社は「の」敵という
 時世に賣手になてくても
 ない」と言っている。ウレシ
 けなうはうにうまなうたから
 我慢して、ういてういたね。
 ○ うまを敵という？
 △ そのう、案外ではない
 だ。大手の金融機関までがう
 ぶだ。中小企業も資金繰りに
 うと大変なのは確か。その
 日経さんが「ロセ」を繰る

[illegible][illegible]

経営者の「出し渋り」を跳ね返す闘いを

FOCUS
焦点
Q & A

98春聞

表一 單一組別聯盟勞動建道

組 名	〒	本部住所	電 話 番 号
大林道路職員組合	107	港区南青山1-24-1	03 (3796) 6760
全大有労働組合	460	名古屋市中区金山5-14-2	052 (882) 9730
大成コテック社員組合	104	中央区京橋3-13-1	03 (3564) 3164
東亜道路労働組合	106	港区六本木7-3-3	03 (3403) 9355
東京鋪装工業社員労働組合	101	千代田区外神田2-4-4	03 (3253) 5981
日本鋪道労働組合	104	中央区京橋1-19-11	03 (3563) 6744
フジタ道路職員組合	103	中央区日本橋3-15-8	03 (3271) 7961
不動建設労働組合	110	台東区台東1-2-1	03 (3835) 0219
前田道路労働組合	141	品川区上大崎3-14-12	03 (3449) 1270
三井道路労働組合	101	千代田区東神田2-6-5	03 (5620) 8856

[illegible][illegible]

に「だに・あか」
一九二六年東京生まれ。
わ。くくくくくくくくく
ド・ス・イ・グ・ク・ク・ク
ウ五輪賞をタクル。
引退後はレヴィヤス
ターとして活躍。「
〇〇は観客員も驚か
す」じつは観衆会で
十五日、国葬式まで
皇族五條宮中殿の御
争停身を求むる「停
戦決議案」の発表演説
をした。

を呼びかけるオリエンツの
意義は変わっていないません。長
野オリエンツにもそこを大切
にしたいです。

福至

集後記

あけましておめでとうございます。本年も道建労協
をどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、お気づきの通り、今回の号から大幅な紙面刷新を行いました。だいたい印象が変わったものと自負しておりますが、いかがでしょうか。

次号からは機関紙タイプにも新しいものにして、従来以上に親しんで頂ける機関紙作りをめざしてまいります。

日本銀行券の製造組合・資機）

